

visual scece	shot	subtitle	object	audio narration	part	music	lyric
シーン	ショット	字幕	被写体	ナレーション	セリフ	音楽	歌詞
1	1		居間にて、畳の部屋に茶舞台が1つと棚が1つに、電灯が天井からぶら下がっている。卓袱台を囲んで、食事をする母、まさお、弟、妹。父親の帰宅に気付き茶碗を置いて立ち上がる妹。		妹:あ、お父さんが帰ってきた。	○	
	2		障子を開けて、部屋に入ってきた父親、帽子やコートを脱ぐ。父親の持ってきた四角い箱を受け取り、畳の上に置く妹		妹:お帰らない、父親:いやあ、ただいま。お土産を買ってきたぞ。	○	
	3		脱いだコートを壁に掛ける父親		父親:どうだ今日は学校の方はうまく行ったか。お父さんはもうそればかりが心配でなあ。	○	
	4		母親の隣に座り、母親に白い封筒を渡す父親。それを貰って父親に頭を軽く下げる母親。		母親:御飯は召し上がりまして? 父親:【おお?】今日もまた本屋さんで御馳走になってきたよ。これが今月のお給金じゃ。	○	
	5		棚から紙を取り出し、胸ポケットから眼鏡取り出して掛ける父親	貧しい交通従業員としての月末の給金。そして本屋から請け負った	母親:有難う御座います。	○	
	6		白い紙「□□□□ 八百屋 五〇七拾五銭 電気代 □□拾銭 □□□代 壱〇〇拾銭 【薪?】□代 四〇〇〇銭 子供学校□□ □学□□ □□八拾銭 □□□□ □□ 子供□□ □六【円?】拾銭 □□ □□八拾銭 合計 六拾貳□□〇銭	わずかな筆耕料。これはこの大人数の家庭を【のり(?)】するには		○	
	7		眼鏡をかけ、手の中の白い紙を見る父親	あまりに寂しすぎる		○	
	8		白い紙1枚「多田様 筆耕料 金九〇〇八〇拾銭在中」封筒1枚「多田〇鉄〇殿【俵取?】□□ □□ □□」	金額でした。	父親:そうそう	○	
	9		母親は手の中の白い紙と封筒を見ていたが、父親の声に目線を		父親:まだ簡易保険の払い込みが残っていたね。	○	
	10		紙を持って母親に話しかける父親。		父親:何と云っても健康が資本だ。あれだけは	○	
	11		左手をちゃぶ台にかけて話す母親		父親:欠かさずに入れておかなければならないね。万一の場合もあり、将来の為もあり。	○	
	12		目線を下に落としたままの父親		母親:大丈夫ですよ。私の仕立物のほうがありますから。	○	
	13		卓袱台を囲み、俯いて座る父親、母親、まさお、弟、妹		母親:保険の方はお払します。本当に子供が大勢で	○	
	14		父親の方へ顔を向けて話しかけるまさお。まさおの顔を見る父親		母親:お気の毒ですわ まさお:父さん、僕学校辞めて給仕になろうか? 父親:なに。何を馬鹿なことを言っているんじや。わしはお前達に勉強してもらいたいばかりに働いているんだぞよ! 父親:お前達はそんなこと考える必要はないのだ。	○	
	15		俯く母親		父親:お前達の本分は勉強だ。人間は貧乏などに負けてはいけいないんだ。さあ、いつものように3人揃って2階で勉強しようじゃないか。ん、さあさあ支度をよし、支度を。	○	
	16		卓袱台を囲んで座る家族5人。子供達に話しかけている父親、まさおと弟を連れて2階へ上がる。皿を片付け始める母と妹			○	
2	1		1つの長方形の大きな机に向かって正座を書き物をしている父親、まさお、弟。父親は着物姿で、1番奥に。まさおは画面右側に、弟は画面左側にそれぞれ座っている。			○	
	2		右手にペンを持ち、紙を左手に持って見たりして、書き物をしている父親	毎夜毎夜、父と子【と?】がこうしてうち揃い、働き、学ぶことが楽しい日課の1つとなっていました。		○	
	3		勉強していたが、伸びをして父親の方を見る弟			○	
	4		父親に話しかける弟。それを受けて、机の上にあった置時計に目をやる父親		弟:父さんもう何時?	○	
	5		時計「午後8:00」		父親:うん、もう八時だ。	○	
	6		机を囲む父親、まさお、弟。父の言葉を受けて、次男は勉強道具をたたみ、それを一端画面外に置いて父親に頭を下げてから、1階へ降りていく弟		父親:さあさあ、お前はお休み 弟:おやすみなさい 父親:ああ、お休み	○	
3	1		アイロンをかける母。学生服の上着のボタンを外しながら母親に話しかける弟		弟:お母さん、寝ますよ。 母親:あ 母親:早いからね。	○	
4	1		勉強をしていたがあくびをして伸びをし、父親を見るまさお			○	
	2		ペンを握り締めて座ったまま眠る父親	最近、なんとなく長男まさおの脳裏に		○	
	3		父親の様子を見て、俯くまさお	一脈の暗影が投げかけられている事を一家の誰もが		○	
	4		ペンを机に落としても座ったまま眠っている父親	気づきませんでした。幼いまさおの柔らかな心に		○	
	5		父親は、はっと目覚めるも、まさおは顔を下にに向けてしまう。父親の方を向き、話かけるまさお	密かに針刺すもの。それは気の毒な父親の、涙ぐましい奮闘の姿でした。	まさお:お父さん。僕少し手伝いましょうか?	○	
	6		まさおと紙を見て肩間に皺を寄せながら首を横に振る父親		まさお:見ながら書けば書けますから。 父親:んん、とんでもない。そんな	○	
	7		まさおに話す父親と、話を聞くまさお		父親:心配をせんでもいいんだよ。お前の大切な時間を	○	
	8		再び俯くまさお		父親:わしの為に費やしてしまうということは、勿体無いじゃない	○	
	9		目線を落とすまさおに父親は話かける。まさおは勉強道具を仕舞い、1度頭を下げ、部屋を去る。父親は再び物書きを始める		父親:お前はお前の本分を尽くさない、これ、何を考えておるんじや。ん。もうお前九時過ぎとる口。さあさ、お休みお休み。 まさお:おやすみなさい。	○	
5	1		母親は割烹着姿で、電灯の明りのもと、畳の上に正座して服を針で縫っている。ふと、手を止めて後ろの方へ顔を向け、身を乗り出			○	
	2		まさおが、黒い学生服姿のまま、背を向けて立ったまま左腕を壁に充てそこに顔を突っ伏していた。			○	□より母は近寄りて

scece	shot	subtitle	object	narration	part	music	liric
シーン	ショット	字幕	被写体	ナレーション	セリフ	音楽	歌詞
	3		まさおの元へ寄る母親。母親は隅の方からまさおを部屋まで連れてきて、肩を抱く。まさおが何か喋り、母親がまさおを抱きしめる。			○	我が子なだめ問いければ 父の体が段々に 衰弱するのがよく分かり 僕はなかなか寂しいよ 聞くより母堪り兼ね 我が子ひしと抱きしめ 父の苦勞を知るなれば そなたは元氣に勉強せよ
6	1		壁にかかっている振り子時計 「後1、2分程で真夜中12:00」			○	これぞ父母への供養(?)なるぞ その夜の既に
	2		並んで布団に入り寝ていたまさおと弟、まさおは起き出して、向こうにいる母親、妹、父親の様子を伺う。			○	けんき口
	3		並んで布団に入り眠っている母親、妹、父親			○	
	4		枕元にあった学生服を取り出して、ズボンを履くまさお			○	いつしか 家人の寝静まる
	5		寝ている父親			○	
	6		父親達を気にしながら部屋を出ようとするまさお			○	
	7		壁にかかっている振り子時計 「真夜中の12:00」			○	
	8		静かに寝ている部屋を出るまさお			○	まさおは
7	1		父親と3人で勉強していた部屋へやってきて、電気をつけるまさお			○	朝にはばかり
	2		机の上には白い紙の束と、置時計 「12:00」			○	
	3		白い紙の束と、置時計を見て嬉しそうにするまさお			○	
	4		障子の傍の棚の上には、二宮金次郎の像がある。			○	二宮先生の
	5		二宮金次郎の像に近づき、その象に向かって何かを話してから、机に戻って、座ってペンをとり、紙を持つまさお。日めくりカレンダー 「APR 25 □□□」、棚の上に並んだ書物、椅子、壁に貼ってある世界地図			○	像に向かい その身の加護を頼みつつ 父を助けて今夜より おびふがきの 加勢をば致しますぞと独り言を 疲れも知らず筆
	6		書き物の仕事するまさお 白い紙 「□□□□□□□□ □□□□□ □文館 (その下に3行ほど細かい字が印字されている)」			○	
	7		2枚の紙を見比べて、まさおは首をかしげる。再度ペンをとるも、置時計に引っ掛けて置時計を倒してしまふ。慌ててそれを抑える。そして、後ろを見る。			○	とれば 1枚2枚
	8		布団で寝ている父親			○	3枚と
	9		時計を元の位置に戻して、再度書き始めるまさお			○	覚えず
	10		時計 「午前1:00」			○	時の
	11		既に置かれていた紙 「□□市外小岩町 □木蔵六様」 書き終えた紙を1枚「桜木市本町 中村芳吉様」、2枚「大阪市□□□修町 青木□□様」を重ねていく。 時計 「午前2:00」			○	過ぎて
	12		まさおは書きながら欠伸をし、部屋をちらちらと見る。紙とペンを片付けて、立ち上がり、画面右側にある日めくりカレンダーを、25日から1枚捲り、26日にして破った紙を丸めて自分の上着のポケット			○	何時しか更けて白みうき 隅田の川の朝霧
8	1		周りに建物があり、その右側に川がある。			○	や